

【ではなぜ、20年にわたり採用してきた手回し充電機能を、搭載しなかったのか？】

その理由は大きく2つあります。

1つ、スマートフォンの高性能化に伴う充電速度の長時間化

手回しによる発電は、出力が4.5V400mAの発電機が使用されています。しかし、現在のスマートフォンは電池容量が大きく、これでは充電に時間がかかりすぎてしまうのです。かといって上記でふれた通り、これ以上の出力アップは、使用者を限定してしまいかねず現実的ではありません。いくら手動で発電できるとは言え、充電に膨大な時間と労力を要してしまうのであれば意味がありません。

※マルチパワーステーション発売時の2004年頃の携帯電話の電池容量は、400～600mAh程度でした。それが現在のスマートフォンでは、3,000mAhが標準でそれ以上の電池容量のスマホもあり、実に5倍以上の電池容量になっています。

2つ、乾電池の性能向上

1990年代、乾電池の品質保持期限は3年程度と言われていました。この品質保持期限の短さが、長期保存が求められる防災備蓄品の条件に合わず、手回し充電機能が重宝されることとなりました。

しかし、現在その性能は大きく向上し、現在は一般的なアルカリ乾電池でも10年ほど、リチウム乾電池では、20年品質を維持する製品もあるほどです。

スマホの充電は乾電池で楽々。

これら最新の技術背景を踏まえ、当社では乾電池式充電機能は十分災害時の停電に対応できると考え、あえて手回し充電を搭載しないことにしました。災害時の停電対策に、スマートフォンの充電、またはモバイルバッテリーのバックアップとして、当社の新たな防災用ラジオライトはいかがでしょう。



本製品に関するお客様からのお問い合わせ先

株式会社 スターリング

Tel : 06-6622-8070